

地域生活交通に係る調査特別委員会 摘 録

1. 開催日 令和7年2月4日(火) 第3委員会室
2. 出席委員 宇江田豊彦委員長 前田智永副委員長 谷口隆明 徳永泰臣 五島誠 國利知史
林高正議長
3. 欠席委員 なし
4. 事務局職員 山根啓荘議会事務局長 横山和昭議会事務局議事調査係長 橋本和憲議会事務局主任主事
5. 説明員 なし
6. 委員外議員 坂本義明副議長
7. 傍聴者 なし
8. 会議に付した事件
 - 1 ナイトデマンドのまとめ
 - 2 報告書について

午後1時25分 開 議

○宇江田豊彦委員長 それでは、第9回の地域生活交通に係る調査特別委員会を開会します。ただいまの出席議員は全員です。本日の会議において、傍聴、録音、録画を許可しています。

1 ナイトデマンドのまとめ

○宇江田豊彦委員長 協議事項1点目に入ります。1月23日に開催された、庄原市における交通手段の確保・維持に向けた「よるくる」の実証実験結果報告・意見交換会に参加してくださったと思います。本来であれば、本特別委員会の委員で「よるくる」に試乗する計画を立てていましたが、計画段階で日程等々の調整がうまくいかず実施ができませんでした。そこで、詳しい話を聞こうということで参考人を招致して説明を受けようと思ったのですが、意見交換会を実施するのでそれに参加して、それでもなおかつ参考人招致が必要であればそのときに招致してほしいとのことだったため、1月23日の会に参加させてもらったところ、かなり詳しい話を聞かせてもらったので、まず参加して皆さんがどのような所見を持たれたのかということから議論を進めてまいります。徳永委員は欠席でしたが、その他の委員の皆さんは全員参加されていたので、そのときの所見について意見交換を行います。どなたからでも結構です。参加されてどのようなことを感じられたのか、御意見をください。五島委員。

○五島誠委員 以前の本委員会での調査の、特に夜間のタクシーが庄原からなくなった危機感や不便さといいますが、そうしたことについて、ニュアンス的にせっぱ詰まった感じが参加された事業者の方などから伝わってきたのが正直なところだと思います。なかなか数字的にはあらわれにくいけれども、肌感覚で市民の方々にそうしたことが広がりつつあることに大きな懸念を抱いたのが率直な感想です。具体的には、例えば、桜花の郷ラ・フォーレ庄原とか飲食店といった所については、夜間のタクシーがなくなったことによって売り上げやお客さんの数に大きく影響が出てきつつあるということが、数字以上に情動的といえますか、そうした部分でより顕著になっていて、庄原市内のともしびが消えるでは

ないですけれども、そうしたことに対する危機感がかなり広がっていて、どうにかしなければならぬという気持ちを持たれている市民の方々も多くおられることわかりました。

○宇江田豊彦委員長 他にありませんか。前田副委員長。

○前田智永副委員長 今、五島委員からありましたけれども、飲食店関係、商工会議所関係の方の影響というのはかなり大きいのだろうなと。中国新聞にも載っていました。夜間のタクシーがないからというわけではないのですが、閉店に追い込まれたという声も実際にお伺いすることができました。今後閉店を考えておられる店舗がどのくらいあるのかということで、7%と出ていました。お客さんも、夜間のタクシーがなくなって、「よるくる」がなくなったらどうするのかということで、出かけるのをやめるという方が25%おられました。アンケートは市民の中でも本当に一部の方だと思うので、実際に庄原市内の環状線といいますか、市内ではかなり影響があるのではないのかなと思いました。「よるくる」の実証実験をされた中で一番しんどいといいますか、懸念されるのがお金の問題、経費の問題と言われていたので、今後、そこをどうしていくのかということも含めてまちづくりについてしっかりと考えていかなければならないのではないかと思います。

○宇江田豊彦委員長 他にありませんか。國利委員。

○國利知史委員 ささまざまな課題が浮き彫りになっていました。まず、ドライバーの確保。ふだんの業務が終わられた方がボランティアでされているとのことで、それだから回っていたという部分もあります。だから、実際に運行するとなると、ドライバーや車両の確保も大きな課題だと感じました。運営するためのお金に関しては、自治体が少し絡んでいかなければならないのかなと感じました。私は「よるくる」を4回利用しましたが、「よるくる」があることによって、実際にタクシーがなくなってから今まで飲みに行けなかった所に飲みに行けるようになったし、夜のまちにも出るようになりました。それ以外にも、「よるくる」がなくなった少し後に、1月に入ってからですけれども、近所のひとり暮らしのおばあちゃんが倒れられて、ひとり暮らしだから誰もいないので私が救急車を呼んだのですが、そのときに庄原赤十字病院からどうやって帰ればいいのかという不便さを実際に感じて、救急隊の方に、私は帰れなくなるので車で後をついて行ってもいいですかと言って庄原赤十字病院について行きました。そういったリアルな体験を通じて、夜は何か交通手段がないといけないなど実際に感じました。

○宇江田豊彦委員長 他にありませんか。谷口委員。

○谷口隆明委員 皆さんがほとんど言われましたが、実証実験をするに当たって、今の条件ではドライバーや経費の問題が非常に厳しいので、これをどのようにクリアしていくのかを考えないと、市内経済に与える影響が大きいので大切なことなのですが、本当にするとなるといろいろな課題があるということが浮き彫りになったのではないかと思います。タクシー業界そのものがもう、特に東城の場合は昼間も含めて非常に厳しい状況になっているので、今後バスやタクシーの業者がどのように生き残っていくのかということも、これも民間の問題だということにはなるとは思います。行政も何らかの支援を考えていかないと、夜のことだけではなくそれも含めて今後は厳しくなるのではないかと感じました。

○宇江田豊彦委員長 他にありますか。よろしいですか。7月の段階で、タクシー事業者の方への聞き取りを3人でしてくださっています。そのときと比べてさまざまな実態が如実に出てきて、より深刻さが増したというのが私自身の実感です。皆さんもそういうことを感じられたのではないかと思います。

す。当初思っていた以上に、夜間のタクシーがなくなったことによる影響がさまざまな形で出ているというのが総体的なところかと思えます。これが最終的なまとめということにはなりません、この部分では、皆さんの御意見を所感として一定程度のまとめをさせてもらいたいと考えています。ナイトデマンドの件について、そのほかに皆さんからありませんか。國利委員。

○國利知史委員　私はこの会に参加したことをSNSにアップしました。そうするとコメントが何件か入ってきていて、県外の方もいろいろと意見をくださっています。その中の意見としては、例えば、今あるタクシー会社に登録制で一般人が登録して、隙間時間に近くにいる人を運ぶような仕組みを導入すればいいのではないかとか、自動運転特区をつくって無人タクシーを試験的に走らせてみてくださいとか、そういういろいろな意見が入ってきているので、この辺はそのほかの地域でもすごく注目されています。特に、過疎化が進む地方ではタクシー会社が利益を上げられない以上、そこまで営業するのは難しいでしょうし、そういった取り組みをどんどん進めたほうがいいという意見もあるので、今後さまざまな方法で、財源のことも難しいと思いますが、外部の人の意見も取り入れることができればいいのではないかと思います。

○宇江田豊彦委員長　そのほかにはありませんか。よろしいですか。

〔「はい」との声あり〕

2 報告書について

○宇江田豊彦委員長　2点目の協議事項に入ります。報告書について、いずれにせよ3月定例会で本特別委員会の報告をしなければなりません。本日は報告書のまとめの議論をしてもらおうということで、まだ十分記載できていませんが、見てもらいながら議論に参加してもらいたいと思います。まず、所管事務調査報告書の、初めにのところを委員長独断で書いてみましたので読んでみます。2024年6月定例会において、地域生活交通に係る調査特別委員会を設置し調査活動を開始した。本特別委員会は2025年3月定例会までに調査結果を報告しなければならず、非常に限られた期間で調査を行う必要があったため、選出された6名の委員に加え、議長及び委員外議員として副議長にも調査活動に加わってもらうこととした。また、地域生活交通に係る全ての調査を行うことは困難であり、効率的に調査を実施するために、地域交通の利用者、今は利用をあまりしていないが利用したいと思っている人、地域交通の提供者からそれぞれ聞き取りを中心に行うこととした。具体的な調査を行う前に、利用者、提供者が地域生活交通についてどのような思いを持たれているのか、一定の議論を通して焦点化した。本市では、通学、通院、買い物等のための交通手段確保を目指した取り組みを進めてきたが、充足感を持てる状況とは言いがたいのではないかと。提供者としては勤務時間も長く人材確保も非常に厳しい、そして、経営が困難な状況になっていることが推測される。なお、調査に当たっては、委員を3つのグループに分け、JR芸備線を日常的に一番活用しているだろう高校生及び高校からの聞き取り、2024年5月をもって夜間運行が終了したタクシーの影響について、地域に求められているデマンド交通について、それぞれ調査を行ったという書き出しで、こういう調査を、聞き取りを中心にして3つのグループに分けて行うことにしたということを中心にまとめています。その次が調査趣旨で、これはまだ文章に起こしていませんが、大体こういうことを書いてはどうかというのを少し口頭で説明します。まず1点目は、芸備線再構築協議会に向けて、一番活用していると思われる高校生の利用実態について

各高校で聞き取りを実施するとともに、日々通学に利用している生徒から直接意見を聴取することにより課題と展望を明らかにする。2点目が、昨年5月25日で終了した市街地中心におけるタクシー運行の影響について、関係事業者、利用者からの声を聞き取るとともに、サービス提供者であるタクシー事業者からの聞き取りを進め、現状と課題を明らかにする。3点目が、2025年より再構築される予定の庄原地域生活公共交通計画の策定に当たり、全ての市民の日常生活を支えるために実施してきたデマンドタイプの交通について、提供者、利用者の現状と課題を明らかにすることにより、地域に求められているデマンド交通の確立を目指す一助とする。そして4点目が、本特別委員会の委員が生活交通を乗車することにより、体験的調査を進め、実感ある生活交通の課題を展望する。調査趣旨の最後で、聞き取りを中心にした形で調査を進めるというまとめ方にして、この4つの柱をもって調査趣旨をまとめたかどうかということで、委員長の方でここまでの経過について考えてまいりました。ここまでで皆さんから御意見があれば伺います。よろしいですか。そういう形で、語句等についてはもう少し検討が必要なので、文章を整理して、その記述についても整理していきたいと思っております。次のページを開いてください。2ページ目、調査概要。本委員会は、3つのテーマに沿って担当グループごとに調査・研究し、委員会で情報共有及び意見交換を行うこととした。また、本委員会は、実際に地域交通に乗車する体験的調査を実施することとしたということで、概要でここがどうかかわりませんか。先ほどのところで整理しているので、この部分は必要ないと思っております。グループ編成の項目があるのでそういう簡単な書き出しも要るのかなと思ったのですが、調査に当たってグループ編成は次のように行ったという形で、簡単な文書で下につなげるほうが文書的には整理ができるのではないかと委員長としては考えています。それで、特に次から皆さんから御意見を伺いたいのです。調査結果について、(1)通学に特化したJRについての調査ということで、皆さん、調査票を見てください。地域生活交通に係る調査特別委員会、高校生のJR芸備線利用状況についてということで報告書を出してもらっています。調査場所は、西城紫水高校、庄原格致高校、庄原実業高校、三次青陵高校、三次高校ということで、学校の関係者からお伺いした話を学校ごとに記述しています。最後に考察ということで所見を箇条的にまとめています。最終的に目指すべき方向までは書けないと思うので、考察で終えるべきなのではないかと思っております。考察を見てもらえれば、ほとんどの高校で保護者の送迎による通学が多いという事実がわかったことから、最後の、三次青陵高校の生徒はJR通学のほか、遊びに行くのにも芸備線を使うなど、芸備線とのかかわりが深いことがわかったというところまでを考察として上げています。これは、このまま使えるのではないかと思っております。調査結果の考察についてはこの調査票をそのまま使えるのではないかと思っております。JRのところまでで皆さんから何か御意見があれば伺いたいのですが、このような形で載せてもよろしいですか。

〔「はい」との声あり〕

○宇江田豊彦委員長 (2) タクシー利活用・需要調査について、まず、調査結果について皆さんに御議論をお願いします。林議長、坂本副議長に聞き取りをしてもらっています。石田タクシーから始まって、少し気になるのは、会社経営にかかわるようなことも記述されています。これをそのまま報告書に載せるのはいかがなものかということもあるので、これをもう少し集約して会社名がわからないようにして、全体のまとめとしてタクシー事業者からの聞き取りを載せるのがいいのではないかと思います。どうですか。せっかく調査をしたのですが、それが直接的に反映されるのもどうなのかなという思いもあります。どうですか。そのような形でよろしいですか。御意見を伺いたいのですが、谷

口委員。

○谷口隆明委員 確かに、所有車からさまざまな具体的な会社の経営状況まで入っているので、トータルとしてどういう問題があるのかを集約していかないと、このまま出すのはよくない気がします。

○宇江田豊彦委員長 林議長、どうですか。調査をしてもらいましたが。

○林高正議長 かなり詳しく、まともに出ていますからね。あなたたちは委託事業でしているのかと言われるかもしれないし。

○宇江田豊彦委員長 これが不特定多数の皆さんにさらされると問題が起きる気がするので、タクシー事業の現状については、事業者は消して、集約的に、コンパクトにまとめさせてもらえればと思います。まとめる作業については委員長に御一任をしてもらえますか。

〔「はい」との声あり〕

○宇江田豊彦委員長 それでは、そのような形にします。考察の部分について皆さんから御意見を伺っておかなければなりません。調査報告をしてもらった実態から皆さんの考察、意見を伺いますが、ありませんか。考察はここで出されていることをまとめるということよろしいですか。林議長。

○林高正議長 タクシー事業者の場合は、運転手不足がずっとあります。これは1つの例ですが、事業者の中に相扶園の安心タクシーがあったと思います。相扶園は、今から20年くらい前から、消防署を退職した人を結構雇い入れています。夜勤があったりするのでなれた人がいいだろうということで、消防署を退職した人を雇い入れているとどこかの新聞で読んだことがあります。例えば、自衛隊や警察官を退職した人に、それなりの対価を払うにせよ、声をかけたらタクシーの運転手になる可能性があるのではないかと私は思います。だから、極端な話、その人たちは二種免許を取らなくてもさせてあげればいいのかという話も実はあります。そのことはまとめの中で、提言的な部分で少し書いてもらったらいいかないかなと思います。

○宇江田豊彦委員長 坂本副議長。

○坂本義明副議長 改造をするのに相当なお金がかかります。200万円、300万円かかるという話があるので、その辺をどのように補助するのかを1つの課題として、できるかできないかはまた今後の課題だろうけれども、その辺も一部分加えてもらったらいいかないかなと。

○宇江田豊彦委員長 他にありませんか。五島委員。

○五島誠委員 調査結果の後の考察で触れざるを得ないのがカスタマーハラスメントで、デリケートな部分もあるかもしれませんが、市民の方にも知ってもらわなければならないのではないかと思います。

○宇江田豊彦委員長 他にありませんか。谷口委員。

○谷口隆明委員 これを書くかどうかは別として、東城の場合は、ことし小型車1台の業者が廃業になって通学タクシーが1社になったのですが、朝7時前に出発して、今まで分かれていた2つのコースを一緒にして中型バスで移動させているということで、非常に子供に負担がかかっています。市としても、通学手段の確保とタクシーの運行は将来の見通しを立てていかないと、綱渡りのようなことをしていると通学手段の確保ができなくなる懸念が、東城の場合は特にあります。通学手段の今後の方向性については市としても業者としっかりと相談をして進めていく必要があるというようなことは入れたほうがいいのかないかなと。今、非常に長時間にわたって2つのコースを行き来しています。

○宇江田豊彦委員長 他にありませんか。先ほど林議長からもありましたけれども、総じて、運転手不足の問題と経営に対する不安、将来展望がなかなか持てないという状況については、きちんと押さえ

た形での報告にしていかなければならないと思います。そこは考察の中できちんと明らかにしてまいりたいと思います。それから、谷口委員が言われた、スクールバスと混在した形で何とか頑張っておられる状況は、先の展望が見えないということで、そのことについても触れておきます。タクシーについてはそのようなことでよろしいですか。

〔「はい」との声あり〕

○宇江田豊彦委員長 (3) デマンド交通についての調査です。特にタクシーの調査と重複する形になっています。前田副委員長、五島委員に調査をしてもらった口和タクシーや比和観光は、タクシー事業もしながら、大半はデマンド交通という形で事業を実施されています。ですから、デマンド交通の中でまとめをするほうが良いと考えています。そこで、デマンド交通の考察の中に入れていかなければならない課題について、皆さんから御意見を伺います。前田副委員長。

○前田智永副委員長 先ほど宇江田委員長が言われたのは、デマンド交通としてという点に重きを置いてということだと思いますが、口和、比和、高野ではスクールバスも一緒に運営されています。ここがかなり大きなウエートを占めているように感じました。これがなかったら運営できないのではないかと御意見を全ての所でお伺いして、市と一体となってどのようにしっかりと取り組んでいくのが重要だと感じたので、そこは言っておきたいなと思いました。

○宇江田豊彦委員長 他にありませんか。五島委員。

○五島誠委員 私どもが調査を行ったデマンド交通は、先ほどのタクシーと似た所はありますが、特徴的な部分としては、先ほど前田副委員長が言われたスクールバス等に代表されるように、より公的資金を注入していかないと交通が成り立たない地域だと言えらると思います。そういった地域がどんどんふえてきているのも事実です。これからの生活交通の核といいますか、ベースの部分はデマンド交通のような形態を主流にせざるを得ない部分もあるのかなど、私どもが行なった調査の結果と、先般のナイトデマンドの調査でも、運転手不足、経営面、人的な部分、地域的な部分等も含めて、普通の、緑ナンバーのタクシーでは難しいということが見えたのではないかと、考察の中で触れてもらえればいいのかと思います。

○徳永泰臣委員 JRで高校生から話を聞いたのですが、例えば、朝の便で、8時半ごろに着く便が庄原までではないですか。そういう便が西城まで行ってくれたら一番いいのですが、JRにお願いしてもなかなか難しいので、その辺をデマンド交通でつなぐとか、二次交通をいかにJRとつなぐかが大事だと思います。その辺を強調してほしいなと思います。

○宇江田豊彦委員長 他にありませんか。五島委員。

○五島誠委員 加えて、路線バスとの比較で、いまだに多くの住民の方や業者の方に言われるのが利用のしやすさの部分で、利便性というか、予約だったり、ある種のちょっとした手間の部分をどうクリアしていくのが今後の課題なのかなど。当然、文化として根付けばある程度はあまり手間に感じない部分もあるのですが、先ほどあったように、例えば、二次交通としての利用となると現状のままでは厳しい部分もあるので、利用方法といいますか、手間をどう改善していくのが課題ということを入れてもらえればと思います。

○宇江田豊彦委員長 他にありませんか。特にデマンド交通については、全ての市民の皆さんの生活交通を確立するということが本市が進めている中心的な事業だろうと思います。ですから、新たな地域交通計画を策定するに当たっては、特にこの部分へ市民の思いを反映した形の計画を実施してもらう、

そういう計画をつくってもらうことが非常に大切だと思います。趣旨のところでは少し述べましたけれども、本当にこれが最後まで本市が細部にわたって取り組まなければならない部分だと思いますので、そこに対する参考となるような形で、今皆さんからあった考察をきちんとまとめて報告をしたいと思っています。そのほかにはないですか。この件についてはよろしいですか。

〔「はい」との声あり〕

○宇江田豊彦委員長　次に、(4) 地域生活交通の乗車について。調査結果については、まだ報告書という形でまとめていません。ここでは皆さんに、どのようなことを感じられたのか、そして、その中で考察すべき点はどこなのかを少し議論してもらえればと思います。委員長も非常に不認識で、例えば、東城のお通りバスが水曜日は運休だということも知らずに計画をしたり、あるいは「よるくる」は水曜日でも乗れるのではないかと安易に考えて計画を立てたりしました。ですから、実感とすれば、私は地域交通についての認識が浅いなど。多分ほかの委員の皆さんはおありだと思いますが、私自身は認識が浅いということを反省として強く感じました。皆さんは乗車を通してどのようなことを感じられたのか御意見を伺います。五島委員。

○五島誠委員　先ほど宇江田委員長が言われたように、今回は、基本的には路線バスやJRなど時間に行けば乗れるものを活用したのですが、それでもふだん使われていない人からすれば、例えば、運休日がいつなのかもわからないわけで、生活交通というか、公共交通機関を使う文化がない人が乗るのは難しい。それに加えて、先ほど申し上げたように、今後は、例えば、デマンド交通といったものが柱になると、さらにもう一手間というか、もう1ハードル上がる部分があるので、重ねてではありますけれども、そこをどう乗り越えていくのかということ課題として触れてもいいのかなと思います。

○宇江田豊彦委員長　國利委員。

○國利知史委員　私も五島委員の意見に賛同する部分がすごくあって、私は最近よく乗りますが、乗りなれてみると非常に使いやすいようにはなっています。場所にもよりますが、特に三城線は便が多いからそう思うのかもしれませんが、「くるけん」というアプリがあって、それを開くと、今バスがどこにいてあと何分で着くということが全部出てきたり、ジョルダンなども併用すればJRとバスの乗り継ぎもうまくいったり、そういうものを駆使すればすごく使いやすいというか、なれば結構活用できます。だから、そういう広報なども行っていけば少し利用がふえたり便利になるのではないかというのは周知の問題で、その辺もうまく活用できる可能性はあると私は最近思っています。

○宇江田豊彦委員長　他にありませんか。前田副委員長。

○前田智永副委員長　今回、乗ってみようということで企画させてもらいましたが、私の下調べがなかなかうまくいっておらず皆さんに御迷惑をおかけしました。実際に使ってみて、使いやすい部分と使にくい部分の両極端を私はすごく感じました。意外と、ここから乗れるのだなというバスの便がしっかりとありましたし、お通りバスは、水曜日は遊YOUさろん東城が休みだから運休とか、そういった地域の事情とも実はつながっているということをすごく感じたので、年代に分けてしっかりと周知をして、市民感覚として乗って行こうという風潮をまずつくらないといけないと思いました。若い人は車が当たり前の時代になっています。高校生の送迎を保護者がするのが当たり前になっている中で、それを公共交通に変えることができれば、生徒自身も保護者自身もすごく助かると思いますし、利便性がすごくよくなったり、そういうことも生まれてくると思います。高齢者は使われていないので、なれてしまえば楽なのだという話も実際に伺いました。ただ、なれるまでの間のサポートが必

要だと思うので、何かワンクッションがないとだめなのかなど。この便に乗ったらここに行けるしここにも行けますよというような具体的なことも含めて、しっかりと生活に踏み込んでいくくらいの何かがあればならないのではないかと思います。

○宇江田豊彦委員長 他にありませんか。よろしいですか。谷口委員。

○谷口隆明委員 國利委員がよく乗っておられますが、議員が積極的に、日常的に体験してみると、市の職員も含めて公共交通を利用して、それからPRをしていくような方向で、率先してする姿勢がなければならないと思うので、そこは一言訴えてもらえばいいなと思います。

○宇江田豊彦委員長 よろしいですか。他にありませんか。実感として、私自身も使っていないことを実感しました。降りるときにどこにお金を入れればいいのかもわからなかったくらいですから、それだけ日常的に公共交通を使っていないことが自分自身も如実に明らかになったと思います。それでは、5点目の地域交通課ヒアリングについてです。実は、事務局でこのような記述をしてくださったのですが、私は、地域交通課ヒアリングはなくてもいいのではないかと思います。皆さんに部門別で調査してもらったことを裏打ちするための、肉づけをするための調査ということで聞き取りをさせてもらったので、この部分については本特別委員会の調査の趣旨とは少し違っており、必要ないのではないかと思います。全体的なこともあるので、ヒアリングについても入れるべきだとお考えの委員もおられるかと思います。この辺はどのように考えるべきか、御意見があれば伺い思います。五島委員。

○五島誠委員 特徴的な部分だけ参考程度に書いておけばいいと思います。1点訂正をお願いします。議員の質疑で、令和5年度利用者数の減と書かれていますが、市街地循環バスと口和乗合タクシーは増で、そこだけ大きく違っているのも、もし書くのであれば気を付けてください。

○宇江田豊彦委員長 わかりました。ここは参考程度の話で、全体を通した今の地域交通全般の課題について説明を受けるという形で、今持っている大きな課題という程度のまとめにさせてもらえればどうなのかなと思います。よろしいですか。

〔「はい」との声あり〕

○宇江田豊彦委員長 最後に、終わりにのところです。総括的に書きたいと思いますが、くださった話、考察をまとめた上でこの部分を書いて、最後の締めは、これを地域交通計画に反映するように、そして、次期議会でもこれを1つの資料として活用してくださるよう期待をして報告とするというまとめ方にさせてもらえればと思いますがいかがですか。前田副委員長。

○前田智永副委員長 先日、市民と語る会の報告がありました。再度熟読してみましたが、生活交通に関することもかなり記述されています。私もまとめの中に少し反映できればいいのではないかと考えたので、まとめたものができたら皆さんにまたお諮りしたいと思うのですがいかがですか。

○宇江田豊彦委員長 ただ、本特別委員会中で議論したことしかまとめの中に入れることができません。全般的なこととして、市民と語る会の中でこういう意見があったという程度の記述はできると思いますが。五島委員。

○五島誠委員 調査報告書の最後に参考資料を付ける場合があるかと思います。もしそれが可能であれば、それぞれの委員会で恒常的に参考にしたということで、市民と語る会の意見の抜粋みたいなものを、市民生活の部分を資料集のような形で次に引き継げば資料収集としての役割もあるのかなど。そういう方法でどうですか。

○宇江田豊彦委員長 今、五島委員から、市民と語る会で出た地域交通に対する課題についても一定程

度資料として載せて整理をしたらどうかという意見がありましたが、そういう形で資料として載せる方向でよろしいですか。

〔「はい」との声あり〕

- 宇江田豊彦委員長　最後に参考資料という形で別添します。全体を通して皆さんから御意見があれば伺います。五島委員。
- 五島誠委員　3月定例会の最終日に報告を行う予定ですが、直近で言うと定例会初日から予算審査がスタートします。幸いなことに本特別委員会の中に教育民生常任委員会のメンバーが3人いるので、予算審査の中で、ここで得たものをある程度は発揮できると思います。地域交通課を所管する教育民生分科会のほうに少し早めに情報提供があればありがたいです。
- 宇江田豊彦委員長　できるだけそのように努力いたしますが、すぐにそういうまとめができるのかどうかということもあるので、宿題にさせてください。全体を通して皆さんからほかになければ、報告書については、定例会が始まった後に一定のものが完成したら皆さんにもう一度お諮りをしたいと思っています。委員長に一任してもらって作成をして、最終的にまた皆さんの御意見をもらって定例会最終日の報告に向けて検討するように考えていますので、どうかよろしく願いいたします。それでは、きょうの特別委員会を終了いたします。

午後2時22分　散　会

庄原市議会委員会条例第 30 条の規定により、ここに署名する。

地域生活交通に係る調査特別委員会

委員長